



大阪市 OSAKA HOUSING DESIGN AWARDS Since 1987 ハウジングデザイン賞

選考有識者会議

- [座長] 高田 光雄(京都美術工芸大学教授・京都大学名誉教授)
 [座長代理] 江川 直樹(関西大学名誉教授・関西大学社会連携部顧問)
 [メンバー] 大谷由紀子(関南大学教授)
 中嶋 節子(京都大学大学院教授)
 難波 里美(株式会社難波不動産鑑定 取締役)
 山崎 正臣(日本放送協会大阪放送局コンテンツセンター第1部(映像デザイン)チーフリード)

総評

今回で第35回を迎える大阪市ハウジングデザイン賞の募集に対して、126件の応募があった。本年度の大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議では、新型コロナウイルス感染症に十分な注意を払いながら、これらの応募案の書類審査、現地審査を行い、多面的な視点からメンバー相互の議論を重ね、最終的に、ハウジングデザイン賞1件、ハウジングデザイン賞特別賞2件を選定した。

今回ハウジングデザイン賞に選定した住宅は、天王寺区に立地する新築賃貸集合住宅である。街路との親和性、街並みの連続性などに配慮し、街との関係を重視した配置計画、良質な普通の暮らしを実現しようとした住宅設計などが高く評価された。

特別賞受賞住宅の一つは、北区に立地する超高層分譲集合住宅で、敷地内の最適解を追及するのではなく、当該住宅を含むより広い地域の住環境に貢献する大規模な公開空地の計画や施設計画の内容が高く評価された。

もう一つの特別賞受賞住宅は、港区に立地する築45年の分譲集合住宅で、維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれている住宅として応募されたものである。良好なコミュニティに支えられた継続的な維持管理の実践が高く評価された。

このほか、地域と関わるイベントも行われる良質な邸宅を改修したシェアハウス、充実した共用施設と運営プログラムを持つ大規模な単身者用住宅、良質な既存単身者用住宅をさらに改修して長期使用を図った集合住宅など、興味深い住宅の応募があったが、総合的な評価において、残念ながら受賞には至らなかった。

次年度以降も、新築住宅、既存住宅を含めた提案の作品や、街と深く関わる作品などがより多く応募されることを期待したい。

(選考有識者会議座長・高田 光雄)

受賞作品

寺田町プレイス1 [新築・賃貸]



居住者の流動性の高さ、まちの更新の速さを考えると、賃貸集合住宅は都市部における合理的な住まいと言ってよい。そういった意味で賃貸集合住宅の質は、都市居住の豊かさを示す指標となる。そのなかにあって本住宅は、まちに暮らすことに正面から向き合い、暮らしと地域の持続可能性をテーマに、建設に至るプロセスを含め丁寧に造り込まれた住宅として高く評価された。収益性からはペンシル型の高層棟が有利な立地にあって、6階建に抑えることで、まちとの接触面を最大化し、1階にまちと住宅とをシームレスにつなぐ装置として店舗、ウッドデッキ、ベンチが配される。外壁や軒天、サインに地元産材や風倒木を用いるなど、循環型デザインへの意識も高い。住戸は2面採光、ゆとりある水回りや収納など、暮らしやすさへの配慮に好感が持てた。まちに暮らす、普通に暮らす生活がこの住宅では実現されている。こうした意欲的な住宅が増えることで、住むまちとしての大阪の魅力が高まるることを期待したい。

(選考有識者会議メンバー・中嶋 節子)



撮影者: 笹の倉舎 / 笹倉洋平

所 在 地: 天王寺区寺田町2丁目
 事 業 者: 大室正子
 設 計 者: 株式会社地域計画建築研究所
 施 工 者: まこと建設株式会社
 構 造・規 模: 鉄筋コンクリート造、地上6階、20戸
 敷 地 面 積: 325.67m²
 建 築 面 積: 239.91m²
 延べ床面積: 1,046.95m²

特別賞 グランドメゾン新梅田タワー THE CLUB RESIDENCE [新築・分譲]



うめきた2期区域に隣接するおよそ1haの敷地に建設された地上51階、総戸数871戸の超高層分譲集合住宅である。広大な敷地と戸数のスケールメリットを存分に活かし創出された3600m²超の緑豊かな公園空間は、都市の里山として住民のみならず周囲に開かれた憩いの空間を提供している。屋上緑化した低層の店舗棟には、地域に少ないスーパー・マーケットと保育園の不足解消として地域の利便性にも貢献している。上層部をセットバックさせることで35階には淀川・六甲山系・大阪湾が一望できるスカイテラス、スカイラウンジを創出し、建物内に住まう人たちに自然を感じる憩いの戸外空間を提供している。南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水地域だが、電気室を2階に設置し浸水に備え、備蓄倉庫の分散配置を実施し、公園空地は防災広場として災害時の一時避難スペースとしての活用を想定している。住民のみならず地域にも配慮された都市型コンパクトタウンのモデルとして特別賞に相応しいと評価を得た。

(選考有識者会議メンバー・山崎 正臣)

所 在 地: 北区淀南2丁目
 事 業 者: 篠のハウス株式会社/三菱地所レジデンス株式会社
 東急不動産株式会社/東京建物株式会社
 エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社/株式会社アシヒプロパティズ
 設計者・施工者: 株式会社竹中工務店
 構 造・規 模: 鉄筋コンクリート造一部鉄骨構造、地上51階・地下1階、871戸
 敷 地 面 積: 10,184.84m²
 建 築 面 積: 3,954.34m²
 延べ床面積: 99,851.70m²

特別賞 東急マンション弁天町 [維持管理・分譲]



当マンションは築45年、152戸、11階建ての分譲マンションである。築45年といえば、一般的には建物・居住者・管理組合の老いが同時進行し、空き家化や修繕積立金の不足が表出し、合意形成や管理不全が懸念される頃である。ところが当マンションは形態こそ昭和の下駄ばきマンションであるが、決して老いは感じない。むしろ、汚れない白い外壁、手入された植栽、清潔なロビーは心地よく美しい。その秘訣は何だろう?自主管理のような活発なコミュニティやカリスマのリーダーがいる訳でもない。しかし、管理組合とともにその活動の一翼を担う修繕委員会が大きな役割を果たしていた。エントランス改修、耐震改修等の重要な案件は管理会社任せにせず、直接、専門家や業者とやり取りし、段階的にバリューアップを図っている。ゆえに、徐々に所有者の世代交代も進んでいる。高経年マンションの再生は個別性が高くロールモデルがないと言われるが、住み継ぐことを意識し、所有者の共有資産である安心安全な住環境を創出する管理は大いに参照でき、高く評価された。

(選考有識者会議メンバー・大谷 由紀子)

所 在 地: 港区弁天4丁目
 管理組合: 東急マンション弁天町管理組合
 管理会社: 株式会社長谷工コミュニティ
 構 造・規 模: 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上11階、152戸
 敷 地 面 積: 2,528.94 m²
 建 築 面 積: 1,167.418 m²
 延べ床面積: 11,192.56 m²